

# 保育の現場から

## うめだ「子供の家」

[東京都足立区]

今は、保育所では、日本で初めてモンテッソーリ教育を取り入れた、東京都足立区にある認可保育所「うめだ「子供の家」」を訪問しました。モンテッソーリ教育に基づき異年齢保育が行われていることをはじめ、個性的な保育を実践しています。



東武伊勢崎線の梅島駅から徒歩10分ほどの場所にあります。隣に大きな公園があり、緑に恵まれた環境です。

### ■ モンテッソーリ教育を1965年から実践

今回訪問した「うめだ「子供の家」」は、外観からは普通の保育所に見えますが、実はとても個性的な保育所です。

「もともとここは、1965（昭和40）年、上智大学が創立50周年記念行事の一つとして創立した、社会福祉専門学校の実習施設でした。ご存知のように、上智大学はカトリック系の大学です。キリスト教の精神から、『生活に余裕のない地域にこそ質の高い教育』と、当時は貧しい労働者の家庭も多かつたこの地域で、モンテッソーリ教育を取り入れた保育所が開かれました」と、廣岡和明園長は言います。

モンテッソーリ教育とは、イタリア初の女性医師のマリア・モンテッソーリが、20世紀初頭に考案した自主性を重んじ、考える力を育む教育法で、第二次大戦前から欧米の国々を中心に各国で実践されています。「園の創立当時は、まだ日本にモンテッソーリ教育の指導者を養成する機関がなかったので、中心的な職員は、モンテッソーリ教育が盛んに

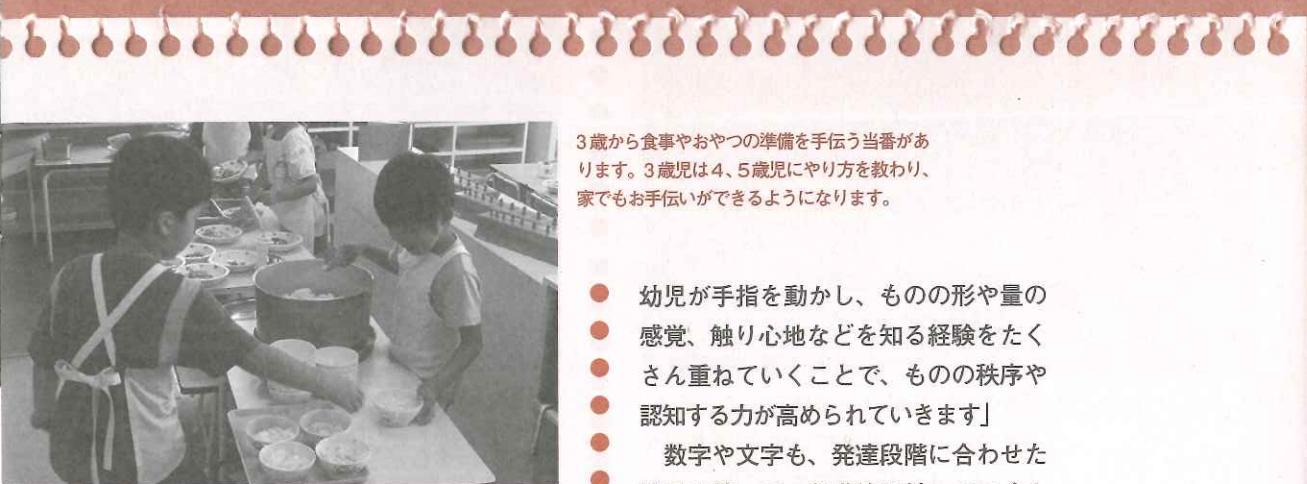
- 行われるドイツに派遣され、資格を取つてきましたよ。当時、日本でモンテッソーリ教育の有資格者がいる保育所はここだけでした

### ■ 異年齢保育で子どもの意欲を育てる

1歳児から5歳児までの子ども130名が通う、規模の大きな認可保育所でありながら、うめだ「子供の家」では、1～2歳児、3～5歳児の縦割り保育を行っています。

廣岡園長は、「縦割りクラスは、モンテッソーリ教育でとても大事なところ」と言います。「子どもの『これをやってみたい』『自分でやりたい』という気持ちを年上の子どもたちが刺激してくれ

自由活動では、子どもたちはクラスの好きな場所で、好きな活動に取り組みます。みんな集中していて、おしゃべりしている子はほとんどいません。



3歳から食事やおやつの準備を手伝う当番があります。3歳児は4、5歳児にやり方を教わり、家でもお手伝いができるようになります。

- 幼児が手指を動かし、ものの形や量の感覚、触り心地などを知る経験をたくさん重ねていくことで、ものの秩序や認知する力が高められていきます
- 数字や文字も、発達段階に合わせた教具を使って、段階的に触れていくよう働きかけます。「いきなり数字や文字を書くのではなく、最初は感覚教具での大きさ、長さなどの具体的な感覚を十分に体験してから、数と量の一致や文字を書く練習を段階的にしていきます。さまざまな種類の教具をつかう経験を豊かにすることは、その後の抽象的な数教育や言語教育の土台になります」
- 「こうした教材は、子ども自身がやりたいと思うことが大切なので、大人が先
- モンテッソーリの教材には、日常生活の自立を助けることを目的にしたものもあります。豆を器から器に移す練習をするスプーンと器のセットも、教材として用意されています。

### ■ 五感を刺激する教具で子どもの力を引きだす

うめだ「子供の家」には、毎日「自由活動」の時間があります。「自由活動」の時間とは、すべての子どもが自分の好きな活動に取り組む時間です。クラスの教具棚に配列された教具・教材の中から、子どもたちは自由に好きなものを選んで、自分のペースで取り組みます。「これらの教具は、手指を動かすことを中心に、感覚を刺激することを通じて発達を促す、モンテッソーリ独特の教具です。感覚の敏感期にある乳



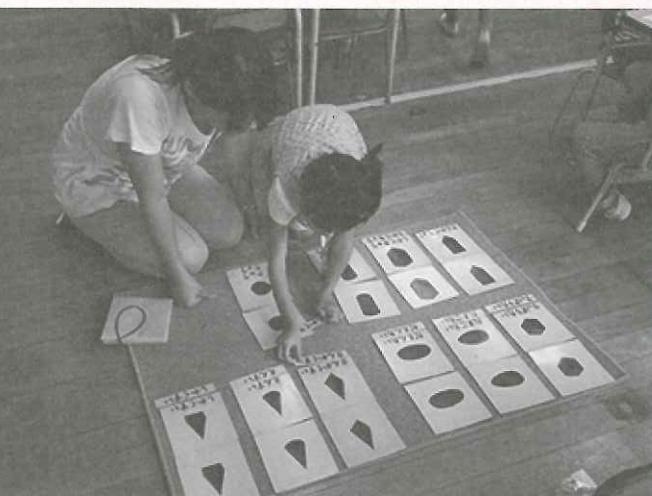
園長・廣岡和明さん  
明治大学法学部を卒業後、日本公文教育研究会に就職。家族ぐるみで交流のあった創立者ペトロ・ハイドリッヒ神父の他界をきっかけに、「うめだ「子供の家」」に転職。2000年第6代園長に就任。

走ってしまうのはよくないんです。また、その子どもの発達段階に合っていないと、上手にできなくて、楽しさを感じられません。保育士は子どもの様子を見ながら、「できた!」「次もやりたい!」と感じられるように手伝えます

### 自主的にできるように 環境をととのえる

モンテッソーリ教育では、教具を子どもの自立を助ける環境としてとらえ、一定のルールを設けています。「たとえば、『子どものサイズであること』。一般的の生活用具は、大人用のものでは、子どもの手や身体に大きすぎます。安全に、上手に使えるようになるには、子どもにふさわしいサイズであることが重要です。それから、『本物であること』。これは本物の素材を使うことや、大人が使っているものと同じもので、サイズだけ子ども向きになっていることを意味します。また、『美しいこと』も大事です。

立体の名称の絵カード合わせをしています。はじめて取り組む時には、保育士がそばについてやり方を紹介します。



何かを汚したら自分できれいにできるよう、掃除道具も子どもの手の届く高さに、ほうきや雑巾を描いたシールを添えて配置されています。



ものの長短を紹介する感覚教具の「赤い棒」をかたづけます。長さを体験できるように持ち、長い順から片付けます。

形が美しい、色が美しいといった造形美は、子どもにとっても魅力的なのです

各クラスの教具の棚は、子どもが好きなときに自分で取り出せるように、子どもの手の届く高さとなっています。子ども自身が自由に取り出し、片付けるということも、自立を助ける環境づくりに欠かせません。大人の管理の都合を優先すれば、決まった時間にだけ教具を取り出せるように、教具を片付けておくほうがいいように思われるかもしれません。でも、モンテッソーリ教育では、保育者は子どもの成長を手助けする立場にあるととらえ、子どものテンポを優先し、子どもが『自分は好きなものに取り組むことを認められている』と感じられる環境づくりを行います



### 障がい児との交流で 個性を認め合う

園の近くには、「うめだ・あけぼの学園」という、発達障がい乳幼児の支援センターがあります。「子供の家」と同じ社会福祉法人が運営し、医療スタッフを含めたチームで、発達障がいのある子どもや、発達障がいの疑いのある子ども、そして家族を支援しています。

「子供の家」と「あけぼの園」では、1979年からインテグレーション（障がいのある子どもとない子どもを同じ場所で教育すること）が行われています。

「特別に何かするわけではなく、同じ場所で一緒に遊ぶだけです。偏見や先入観のない幼児期にこうした経験することで、将来自分と違うタイプの人にお会ったときにもさまざまな個性を受け入れられる心をもった人になってほしいと思います」

### 成長した卒園生が 戻ってくる

来年、園は創立50周年を迎えます。わが子をこの園に通わせた卒園者も少なくありません。「高校生や大学生になった卒園者が訪ねてきて『雰囲気が変わらない』と言って、懐かしんでくれることもあります。モンテッソーリの影響かどうかはわかりませんが、個性的な生き方をしている子がけっこう多いかもしれません」と言う廣岡園長自身も、



クリスマス会の演劇では、5歳児の子どもたちがセリフを覚え、キリスト誕の劇を演じます。

この園の出身者です。

「大人になってからあらためてモンテッソーリ教育が自分の原点にあることに気づきました。個性的な生き方といえば、自分自身もそうかもしれませんね。家族ぐるみでお世話になった、この園の創立者である神父さんが他界したとき、「園の手伝いをしよう」と会社を辞めてきたのですから」と廣岡園長は笑います。

「時代が変わっても、子どもが持つている力は変わりません。子どもに必要な生きる力も、同じです。高度に情報化された便利な生活のために、身体を使って子どもの感覚を刺激する機会が乏しくなっていると言われる今こそ、モンテッソーリ教育の良さをより多くの人に知ってほしいと思います」



子どもたちは、クラスごとに週に1回交流している、うめだ「あけぼの学園」の子どもたちを特別扱いすることもなく、ごく普通に接しています。こうした経験によって、さまざまな人と分け隔てなく接することができると、廣岡園長は考えています。

## 先輩に聞きました



五十嵐あゆみさん

2012年、4年制大学の児童科を卒業し、「うめだ『子供の家』」に就職。現在はモンテッソーリ教員資格の取得をめざし、働きながら勉強をしています。

Question &amp; Answer

Q

**Q** 「うめだ『子供の家』」に就職しようと思った理由は?

**A** 家からの通いやすさや待遇などが希望に合っていたうえ、インテグレーションで障がい児との交流も行われていることや、異年齢保育が行われていることに興味を持ちました。

**Q** 学生時代、モンテッソーリ教育についての知識はありましたか?

**A** 知っていましたが、専門の勉強はまったくしていません。学生時代に実習に行った保育所では、クラスの活動は、先生が何をするかを決め、みんながそれを一齊にやるというものでした。自由遊びの時間は、子どもたちは外でワイワイ遊んでいるか、室内でおままごとなどをしていたので、ここで働き始めた頃は、自由活動の時間に子どもたちが好きなことに集中して取り組んでいる姿に驚きました。教具を取り合ったりすることが多少あっても、たいていは同じ場を楽しそうに共有できています。室内で子どもたちが落ち着いて活動する様子は、他の園にはない光景だと思いました。

**Q** 新人時代、難しさを感じたことはどんなことですか?

**A** 子どもの声のかけかたですね。どのように声をかけると、子どもにとって動きやすいのかな?と迷う場面がよくあり、先輩のやり方を見

今は「うめだ『子供の家』」で働く保育士五十嵐あゆみさんにお話をうかがいました。就職して3年目、現在3~5歳のクラスを担当しながら、モンテッソーリ教員資格の取得をめざしている五十嵐さんに、モンテッソーリ教育の勉強のことや、毎日の仕事の中の楽しみ、保育士になる方へのアドバイスなどをうかがいました。

て少しずつ覚えていきました。たとえば、保育士から「これをやりましょう」と声をかけるではなく、「何をしたい?」と尋ねるほうが、子どもの自主性を引き出すことができます。また、個々のペースを尊重するだけでなく、集団を動かすことも必要です。その場その場に応じて、的確な言葉をかけるには、子どもを見る力や経験が必要なので、3年目の今は新人時代よりも少しできるようになってきていますが、やはり難しいと思います。

**Q** モンテッソーリ教育の勉強をされていますが、どんな方法ですか?

**A** 「うめだ『子供の家』」では、職員にモンテッソーリ教員資格を取ることを強制しているわけではありません。また、就職1~2年目は仕事に慣れるのに精一杯で、勉強する余裕はありませんでした。でも、これまでの2年間、先輩を手本にやってきて、モンテッソーリの教具を使いこなせるようになるには、自分自身がもっと深く勉強する必要があるとも感じていました。それで、今年の4月からモンテッソーリ教員資格を取れる講座を受講しています。この講座は2年コースになっていて、1年目の今年は月に1回、当保育所3階で行われる授業を受けます。2年目の来年は月1回、土日に京都の学校に行く予定です。



子どもが青いじゅうたんの上に並べた白い数字と、水色の布に書かれた数字が同じ形か見ているところです。子ども自身が、9を逆向きに置いたことに気づきました。

Question &amp; Answer

**Q** 受講されて、どのようなことを感じましたか?

**A** 発達の段階にふさわしい教具で活動することの大切さに気づきました。以前は、本人がやりたがっている教具で活動しているときに、それが子どもの発達の段階に合っているのかどうか、深く考えていませんでした。授業を受けて以来、その子の発達段階にふさわしい教具に、本人が関心を持って取り組めるように導くことを心がけています。子どもの発達の進み方はひとりひとりで違うので、その子が今どの段階にあるのかをしっかり見極められるようにならなければ、と思います。

**Q** 保育の仕事をしてよかったですと思うのはどんなことですか?

**A** 子どもの小さな変化を見られる毎日がとても楽しく、毎日笑顔でいられることですね。子どもたちといふると、意識しなくても、自然に笑顔になってしまいます。

3~5歳児クラスの昼食は、異年齢の6人グループに分かれて食事をして、保育者もその1つに入って子どもたちと一緒にお昼を食べます。その時間は、家庭の団らんのように、グループ内でゆっくりとおしゃべりができ、おうちでの話を子どもたちから直接聞けたり、友だち同士の会話を聞けたり、ひとりひとりといつもとは違う関わり方がで

きます。おとなしい子のおしゃめな一面や、意外な好みなど、今まで知らなかっただ子どもの顔が見えて、多くの発見がある時間です。定期的に食事の席を替えるので、子どもたちも次はどの先生と一緒に食事ができるか楽しみにしているようです。

**Q** これから保育士として働く方にアドバイスをお願いします。

**A** 子どものコミュニケーションだけでなく、保護者とのコミュニケーションも意識すると、保育士と家庭が互いに協力し合える関係をつくりやすいと思います。保育士になった友だちに、「保護者との会話が苦手」という人もいますが、私は保護者に、その日お子さんが楽しんでいたことや、お子さんのしぐさに思わず笑ってしまったことなど、楽しいエピソードを伝えるようにしています。どんな保護者でも、わが子の楽しいエピソードを聞くと、笑顔になってくれますよ。

また、新人は何もかも先輩から学ぶので、熱意をもって保育をされている保育士が多そうな園を選ぶことも大切だと思います。私がモンテッソーリ教育の勉強をしているのも、この園で働く先輩たちからの影響です。どのような園で働くかで、保育士としての今後はかなり変わってくるでしょう。